

巴里の秋

岡本かの子

青空文庫

セーヌの河波かわなみの上かわが、白ちしらやけて来る。風が、うすら冷たくそのうえを上走り始める。中の島の岸杭がちよつと虫むしばんだように腐くさつたところへ渡り鳥のふんらしい斑まだらがぼつとり光る。柳やなぎが、気ぜわしようにそのくせ淋さみしく揺ゆれる。橋が、夏とは違つてもつとよそよそしく乾くと、靴くつより、日本のひより下駄げたをはいて歩く音の方がふさわしい感じである。巴里に秋が来たのだ。いつ来たのだろう、夏との袂べいべつ別をいつしたとも見えないのに。秋をひそかに巴里は迎え入れて、むしろ人達を惑まどわせる。そうになると、街路樹がいろじゆの葉が枯か葉れはとなつて女や男の冬着の帽ぼうや服の肩へ落ち重なるのも間のない事だ。

ハンチングを横つちよにかむり、何か腹掛はらがけのようなものを胸に当てたアイスクリーム屋のイタリー人が、いつか焼栗やきぐり売りに変かわつてゐる。とある街角まちかどなどでばたばたと火を煽あおぎながら、

——は、いらはい、いらはい、早いこと！ 早いこと！ アイスクリームの寒帯から早く焼栗屋の熱帯へ……は、いらはい、いらはい。

空には今日も浮雲うきぐもが四抹しまつ、五抹。そして流行着のマネキンを乗せたロンドン通がよいの飛行機けいこうきが悠長ゆうちやうに飛んで行く。

——いよいよね。今月一ぱいで店を畳んで、はあ、ツール在の土となるまでの巢を見つけて買い取りましたよ。巴里にも三十年、まあ三十年もまめに働けばもう、楽に穴にもぐって行く時節が来たというものですよ。

パツシー通りで夫婦揃って食料品店で働き抜いた五十五、六の男の自然に枯れた声も秋風のなかにふさわしい。男は小金を貯めた。多くの巴里人のならわし通りこの男も老後を七、八十里巴里から離れた田舎へ恰好な家を見付けて買取り、コックに一人の女中ぐらい置いて夫婦の後年を閑居しようという人達だ。

——店の跡を譲った人も素性はよし（もちろん売り渡したのだが）安心して引込めますよ。この秋は邸のまわりの栗の樹からうんと実もとれますし、来秋から邸についた葡萄畑で素敵な新酒を造りますよ。どうぞおひまを見てお訪ね下さい。

相手になつてゐるのは、これも勤勉な隣街の大きな靴店のおやじだ。

ひるひとときはひっそりとする巴里。ひるのひとときが夜のひそけさになる巴里。秋は殊さらひそかになる昼だ。

何処か寂然として、瓢逸な街路便所や古塼の壁面にいつ誰が貼って行つたともしれないフラテリニ兄弟の喜劇座のピラなどが、少し捲れたピラじりを風に動かしていたり

する。

ブーロウニユの森の ひとつどころ 一 処 をそつくり運んで来たようなシヨウウインドウを見る。枯れてまでどこ迄も まで デリカを失わない木の葉のなかへ、スマートな男女 さんざく 散策の人形を置いたりしている。オペラ通りなどで、そんなデリカナシヨウウインドウとは似てもつかない。けばけばしいアメリカの金持ち女などが た 停ち止つて どま 覗いているのなどたまたま眼につく。キャフェのテラスに並んでうそ寒く肩をしぼめながら あつち 眺めたコーヒの色は ひとつ 一きわきめこまかに濃く色が沈んで、唇に くちびるあた 当るグラスの親しみも よけい 余計しみじみと感ぜられる。店頭に出始めたぬれたカキのからのなかに弾力のある身が あかり 灯火に光つて並んでいる。路 みち 傍の犬がだんだんおとなしくしおらしく見え出す。西洋の犬は日本の犬のように人を見ても ほ 吠えたりおどしたりしない、その犬たちが秋から冬はよけいにおとなしく人なつこくなる。

公園で子を遊ばしている こもり 子守達の会話がふと耳に入る。

十八、九なのが二つ三つ年上の あみもの 編物を のぞ 覗き込みながら、

——あんた、まだそれっぽっち。

——だってあのおいたさんを遊ばせながらだもの。

なるほど、傍 そば で砂いじりしている子はおいたさんと呼ばれるほどの一くせありげないた

ずらつ子の男児だ。

—— だけど、その帽子の色好いね、ほんとに。あんた毛糸の色の見立てがうまいよ。

—— うん。

—— あら、やに無愛想だね。またあの兄んちゃんのことでも考えてるんだろ。

—— からかうにもさ、リヨン訛じや遣り切れないよ、このひと、いいかげんにパリジェンヌにおなりよ。

十八、九のは少し赧くなりながら、

—— 大きなお世話さ。

—— だつてさ、お前さんのあの人だつて、いつまでもリヨン訛じややり切れまいさ。

—— 大きなお世話さ。

十八、九のはてれ隠しに自分の守り児のかぼそい女の児を抱き上げて、

—— 芝居季節が近づいたんでこの子のお母さん巴里へ帰つて来るつてさ。

—— あのスイツルの女優かえ、又違つたお父さんの子でも連れて帰るんだろ。

夕ぐれ、めつきり水の細つた秋の公園の噴水が霧のように淡い水量を吐き出している傍を子守達は子に乗せた乳母車を押しながら家路に帰つて行く。

青空文庫情報

底本：「愛よ、愛」パサージュ叢書、メタローグ

1999（平成11）年5月8日第1刷発行

底本の親本：「岡本かの子全集 第十一卷」冬樹社

1976（昭和51）年7月15日初版第1刷発行

初出：「週刊朝日」

1933（昭和8）年10月15日号

※表題は底本では、「巴里《パリ》の秋」となっています。

※「瓢逸《ひょういつ》」の表記について、底本は、原文を尊重したとしています。

入力：門田裕志

校正：土屋隆

2004年3月30日作成

2013年10月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

巴里の秋

岡本かの子

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>